

科目名称(Course Title)				担当教員(Instructor)	
マクロ経済学				三好 ゆう	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修
授業の概要(Course Description)					
<p>マクロ経済学は、ミクロの経済主体の行動結果を集計して、それら集計されたマクロの変数の動き方を分析する。具体的には、GDP（国内総生産）、国民所得、消費、投資、政府支出、国際収支、インフレーション、失業率などである。本講義では、これらがどのようにして決定されるのか、財政政策や金融政策がどのような効果を及ぼすのかについての簡単な理論的枠組みを学び、理解することを目的としている。</p> <p>講義では、グラフと数式が多用されることから、数学の考え方が必要となる。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>本講義の目的は、経済循環や経済政策など、マクロ経済の動きを簡単な理論的枠組みを用いて説明できるようになることにある。以下の2点を最終到達目標とする。</p> <p>(1) 専門用語や理論的考え方を理解する (2) 公務員試験レベルに十分に対応できる知識を身につける</p>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	第 1 部「マクロ経済学の基礎理論」マクロ経済学とは何か				
第 2 回	" マクロ経済の循環と国民所得				
第 3 回	" 「短期」と「長期」				
第 4 回	第 2 部「財政金融政策の有効性」 財政政策と乗数①				
第 5 回	" 財政政策と乗数②				
第 6 回	" 貨幣の需給と利子率①				
第 7 回	" 貨幣の需給と利子率②				
第 8 回	" I S - L M分析①				
第 9 回	" I S - L M分析②				
第 10 回	" 財政金融政策の効果				
第 11 回	第 3 部「マクロ経済学と日本経済」戦後日本のマクロ経済				
第 12 回	" 昭和・平成契機とバブルの形成				
第 13 回	" バブルの崩壊と平成不況				
第 14 回	" リーマンショック				
第 15 回	総まとめ マクロ経済政策の有効性				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<p>① 毎講義の復習は、レジュメの他、参考書等を活用し、理解を深めておくこと ② ニュースや新聞に絶えず目を向けておくこと</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
期末試験 (100%)	秀：必要なキーワードを過不足なく用いて、説明ができる 優：キーワードを用いながら、概ね説明ができる 良：キーワードを用いながら、ある程度は理解できている 可：キーワードやしくみについて、最低限の理解ができている 不可：キーワードやしくみについて理解できていない
テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 ※特になし。授業で配布するレジユメを中心に行う。
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	毎講義のレジユメの中で、適宜、参考文献を紹介する
備考 (Other Information)	・学生の理解に応じて、授業計画（授業の進捗）が前後することがある
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	週2コマをオフィスアワーとする（事前連絡は不要） 具体的な曜日・時限については、オフィス前に掲示しておく